

Round 5



Outline

ポール・トゥ・ウィンで 昨年同様シーズン3勝を記録 2年連続でチャンピオンに輝く!!

2024 AUTOBACS SUPER GT Round5 SUZUKA GT 300km RACE GRAND FINALが、12月7日(土)～8日(日)に三重県の鈴鹿サーキットで行われた。ランキング首位で最終戦を迎えた #36 au TOM'S GR Supra (坪井翔 / 山下健太) は、予選で今季2度目のポールポジションを獲得すると、決勝レースでも堅実な走りでもってトップを守り抜いて今季3勝目をマーク。2年連続となるGT500クラスチャンピオンに輝いた。



Information

circuit	鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)	
date	12/7 sat	12/8 sun
weather	晴れ	晴れ
spectators	45,500人 (sat 18,500人 + sun 27,000人)	

SUZUKA

Result

36

TGR TEAM au TOM'S

Car



au TOM'S GR Supra

Driver


 坪井 翔
Sho Tsuboi

 山下 健太
Kenta Yamashita

予選 1位

決勝 1位

Driver Rank

1位

97points

Team Rank

1位

114points

予選 Q1 山下 : P3 / 1'43.737

予選 Q2 坪井 : P3 / 1'43.271

 決勝 ファステスト
ラップタイム 坪井 : 1'47.741
山下 : 1'49.068

予選

●天候：晴れ ●気温：14℃ ●路面温度：24℃



Qualifying detail

確実な走りを披露し 今季2度目の予選PP。 決勝レースを待たずして チャンピオンが決定!!

この鈴鹿大会は8月末に予定されていたが、台風接近に伴う影響を考慮して12月に延期。シーズン最終戦の舞台となった。前戦のもてぎ大会を終えて、36号車の坪井と山下はライバルに対して18ポイントをリード。結果次第では予選でチャンピオンが決まる状況で最終戦に望んだ。

朝の公式練習では4番手と上位につけると、予選に向けて微調整を行い、まずは山下がQ1のタイムアタックを担当した。ポールポジションを狙いながらも、確実にタイムを記録することを意識して、1分43秒737で3番手につけた。続くQ2は坪井が担当し、こちらも確実性を重視した走行を披露。最後に1分43秒271を記録して3番手となったが、2人の合算タイムでは3分27秒008でライバルを0.2秒以上、上回り、今季2度目のポールポジションを獲得し予選ポイントの3ポイントを追加した。

さらにシリーズランキングを争うライバルが4番手になったことでポイント差が広がり、36号車は決勝を待たずに2024年のチャンピオンを獲得した。坪井とチームとしては2年連続となり、坪井はスーパーフォーミュラと併せ国内トップカテゴリー二冠達成の快挙を成し遂げた。

After Qualifying



**予選でチャンピオンを
決めたい気持ちがありました。**

ドライバー 坪井 翔

SUPER GTは最後まで何があるかわからないので、予選でチャンピオンを決めたいと思っていました。山下選手同様に攻めきったというアタックではなく無難にいったところはありましたが、ポールポジションを獲得することができて良かったです。



**チャンピオンが決まって、
ホッとしています。**

ドライバー 山下 健太

チャンピオンがかかっている予選だったので、120%のアタックというよりも走路外走行でタイムが抹消にならないように気をつけて走りました。少しミスもあって微妙なアタックにはなりましたが、3番手タイムということで最低限のことはできました。

TGR TEAM au TOM'S **36**



**決勝がまだ残っているので、
きちんと走り切りたいです。**

チーム監督 伊藤 大輔

公式練習のタイムを見るとポールポジションは厳しいと思っていましたが、2人からのコメントをうまく車に反映して、合算タイムでトップに立つことができました。予選でチャンピオンを決めることができて本当に良かったです。決勝も優勝してもう一度喜べるレースにしたいです。



**いつも通りにやれば
大丈夫だと信じていました。**

レースエンジニア 吉武 聡

2人のコメントから焦っているような感じがあったので、おそらくプレッシャーを感じていたのだと思います。とはいえ、やることはいつもと同じなので落ち着いていけば大丈夫だと思っていました。確実性を重視したアタックでしたがポールが獲れて良かったです。

決勝

●天候：晴れ ●気温：13℃ ●路面温度：19℃


Race detail

山下が粘りの走りで トップを守り切り、 今季3勝目を記録。 王座獲得に華を添える。

今回は300kmレースとなり51周で争われた決勝レース。ポールポジションの36号車は坪井がスタートを担当した。寒いコンディションのなかでタイヤを温めるのに苦戦しながらも、着々と後続との差を広げていった。

ライバルが早めにピットインしたのを見て、36号車も18周目にピットストップを行い、山下に交代。首位を守ることはできたが後方からライバルが勢いよく追いかけてくる状況で、防戦一方の展開となった。一時は追い抜きを仕掛けられる場面もあったが、山下が冷静に対応して首位を維持。31周目にトラブル車両の発生でフルコースイエロー（FCY）になった際もリスタート後に逆転を許さないように気を配りながらの走行を続けた。終盤には別のライバルが接近して最終ラップまで僅差の戦いが続いたが、山下はしっかりとトップを守り切ってチェッカーを受け、今シーズン3勝目を挙げた。前日の段階でシリーズチャンピオンを決めていたが、全車がサクセスウェイトを積んでいないイコールコンディションで行われた最終戦もポールトゥウィンで締めくくり、36号車の速さと強さを証明した。

After Race


**リードを築いて
バトンタッチできた。**

ドライバー 坪井 翔

今回は寒いコンディションだったので、タイヤのウォームアップが大きなカギになっていました。序盤は思った以上に後続を引き離すことができて、いつもの独走パターンに持ち込めたのが良かったです。



**苦しい場面もありましたが
最後は勝って終わって良かったです。**

ドライバー 山下 健太

坪井選手とは違うタイヤを履いて後半に臨みましたが、安定はしているけど抜群に速いというわけではありませんでした。ライバルに追い詰められましたが、相手のミスに助けられたところはあります。予選でチャンピオンを決められたので、比較的、楽な気持ちで戦うことができました。

TGR TEAM cu TOM'S 36


**最終戦を優勝して気持ちよく
シーズンを終えられました。**

チーム監督 伊藤 大輔

ピットインのタイミングはライバルの動向をみて対応しました。その結果、山下選手のスティントが長くなりました。気温と路面温度が下がっていくなかで、タイヤのパフォーマンスも未知数な部分はありませんでしたが、しっかり抑えきってくれました。



**2023年の結果を上回る
シーズンにできました。**

レースエンジニア 吉武 聡

決勝に関しては全体的に苦しかったです。今回36号車が選んだタイヤが全体的に硬めだったので、途中でFCYが入ると周りとの差が縮まる傾向にあったと思います。FCYが入らなければ、もう少し楽な展開になっていたかもしれません。

Summary



チームオーナー
館 信秀

今週末の36号車は本当に完璧でした。可能性があったとは言っても、まさか予選で決めてくれるとは思いませんでした。決勝では途中ハラハラするような展開もありましたが、苦しい場面でもしっかり耐えて優勝してくれたのは嬉しいですし、応援してくれる皆さんも喜んでくれたので良かったです。TOM'Sの50周年という節目のシーズンで、素晴らしい活躍を見てくださいました。本当に良い年になりました。

今年もたくさんのご支援・ご声援をいただき、ありがとうございました！2025年も更なるご支援、ご声援をお願い申し上げます。

Race Scene



au

KDDI

KUO GROUP

au

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-DC
TGR Driver Challenge Program

BRIDGESTONE

バンテリン

広島トヨペット

Deloitte

益州集團
Yi-Chiu Group

MASEKI
GEINOSHA

Nippon Pioneer

Achilles

Entowa's
NUSH

TAMIYA

Valvoline

uchino

豊通テック
TEC

HITECH RESIN

ANIME MATSURI

bryza

JAPAN TRUCK SHOW
ジャパントラックショー

EDIFICE
CASIO

トヨペット

S&D
TAMA GROUP

BRIDE

FUKADEN

PORTS.CO.JP

HRX

TAMACHI

ENKEI

ThreeBond

Snap-on

Mizuno

both
GROUP

Support

KVA

Mechanic WEAR

電磁研